

後魏王肅恭の世祖氏帝に
つらん章曜孫皓の宴よハ酒に人劉琨弘
景のいよやうたよ。陸羽盧仝がとも
が。おとけは清い水をうけしむ。ほろろと
ほくくも。茗人の口に讀しぬ。さよとばりも。
皮日休の茶中雜詠序。劉禹錫の試茶歌。
張又新の煎茶記。歐陽修の大眼水記。徐巖
泉の六安列茶居士傳。王禹偁の茶井詩。李商
羅大經の茶瓶湯侯詩。蔡君謨の茶譜。陸遊の
試茶首乃の茶詩。吳淑の茶賦。范希文の闘茶
歌。唐の西の同説。蘊の膳の飯。茶出歌。黃魯

直同賦はくく。劔南の蒙厨石花湖外
顧渚紫笋峽列の碧間明月や。或ハ
霍山鳳凰のくく。黔中の見播費夷江
南の鄂表吉嶺。或乃福建韶象の十一列
或まろろ。雪腴雲脚細珠素濤をよむ。
へまれくく。乃啞具のいゆる。也。唐德宗
乃くく。秘茶のくく。非評まろろ。
んくく。碾磴のまろろ。挽轉にろろ。あ
るろろのまろろ。らに比。薩摩の八建長
寺僧文之黒齋を人に笑う書。化ろろ。
南浦文系にんくく。ろろあろろ。

ちりり

宇治川 橋

○け川 鞆もろと 鞆へいりてや

人丸舌のに 武士乃ハチらら川の細成木

小いざりよ 波のりるるんをいそとを 寂蓮を

に暮くひりまをらるいこい ねとて成

しにけけららら乃柴舟

○宇治橋 宇治乃里の良よもろと大橋の

一也

山崎大波 近江勢多 宇治をえやびり

秋乃悲性 河橋一百八十九不ば宮よとて

乞之は人のいへりていへりていへりて

秦昭王初作橋 始皇次作石橋 萬歳之要往來之

通今又古々猶今韓愈之方橋 非閣船可居過 菴

之竹橋 白鶴天青電水整董辛深高辛裴航遇

仙女非藍橋 耶清粧懶情取迷身 鄭榮起詩

思非廟橋 耶近來送去且銷魂 裏喜隆房

袖中坐月 庭家々 席上駝駝橋 在湖列府 虹

規橋 入介甫吟 蘓子瞻新西東 惠列橋 子柱

邵康即同杜鵑 天津橋之一興 和什漢格 景實

書別看易地 奇隨處知正与

橋姬

○は社ハ橋乃西のしめや

姫乃大神ハ宇治王姫とて云。離宮御極橋

姫にかうくふ河邊とて波小若きと云

と云。又一説に佳吉御神宇治乃橋御神

少。あつひとあつひや

定家卿云にさむらやまつよのたれ

風ふけく月なうとあうらのとて姫

急圓より河は本にづらうの波はちあ

たくと押や和あつら乃橋姫

さうと冠者義仲上を好く友送

乃んくく右兵衛頼朝ける志は

め如くんとく。蒲冠者九郎判官とち将と

しはくく終つて。梶魚海太景季十九依

と木四郎高綱と七とく。は川をわくくは

りくくく。平家物語にこそをり

識に兵家よとていん人のとてをに

ゆまびぬ乃乃ちり人のとてをに

もくく。よとく。よとく。よとく

つとめんとく。よとく。よとく

たもた。たもた。たもた。たもた

いすのひちく。景季とて綱つまのとて

よとく。よとく。よとく。よとく

勤まな学ののこめにあつたるのう囊螢ひらひきり
文苑ぶんえん英えい幸さきにやん。車くるま云い書しよ窓まど乃なり風かぜ雨あめの
おちるる。びつうの大おほ螢ひらといめくつとけり
くつて

歎なげ冬ふゆ頼たの

○けにいげきのやどくそにけり
西園さいえん寺てら入道にゅうだう相国さうこくのまのま。あまうつら心こころのなげ
けり。のむよ。年とし一ひととうらうらう乃なり門かど長ながとよ
めは。新あらた拾遺しやくいまのの歎なげよ。かんくつら

橘たちばな小嶋こじま崎さき

○けい平へい等とう院いん乃なり良よのこなり

源げん氏し物語ものがたりに兵へい平へいのうま。字あざな治ちよ。ありては
よつと。おらあつた人の家いへよ。東屋とうや乃なり宮みやとら
ひて。ひらき。丹にのつと。路みち小嶋こじま崎さき
へ。こき。しん。橘たちばなの小嶋こじま崎さきとら。あま
し。さめ。あつと。ばうし。ん。路みちとら。あま
あ。は。ま。し。せ。も。う。つ。身み平へいの。う。つ。あ。ま
し。の。こ。め。と。わ。く。兵へい平へいの。う。ま
ま。う。つ。あ。ま。し。ん。あ。橘たちばなの。小嶋こじま崎さきの。う。ま
ら。う。つ。あ。ま。し。女めも。あ。ま。う。つ。あ。ま。の。う。ま。う。ま
ひ。て。あ。ま。の。う。ま
橘たちばな乃なりこ嶋じまの。あ。ま。う。つ。あ。ま。け。り。あ。ま

けいそんくくせぬ

暎より小徳のふゆをわすらん人のつこ
しりしんこゆさいひ。少後といふや

釋等院

○け寺ハ宇治橋より二三町なご川下

うにいらし。

永承六年春之月太僕藤原頼朝が宇治

治の別業をいひて平等院を築く

そのころおもひ十月帝の幸に始りて

忠快法師に院をにならるるに依り

ままじき心のなごけりや

めはるのおら治川を流るる心のなご

うのしりかまゆらふ心をなご

治承四年に源三位頼政高倉帝に

てゆけつと謀及と企てて院に

せ給ひはしる。相國法盛星兵試し

のぞかしに俵又太郎忠綱が陣あくる頼

政を斬死す。いなき事とや

帝ハちある良の路あり。害まあるい

そ平家物語日くハ。代々人々乃

いとあせせらるるはあり。陸の

朝日さびるけしうつぎのこのまゝにこづの
千あうらふしるむい けう平坐の後の棟
木にきき付まゝとるり。きしけは破毛よ及
ひなを造修とんじとや。一雨乃去。みるむ
うつぎのけいこぬら。あまにわしとゆるこ
かきつらふ

○観音堂 平等院の門は入くらう

○扇芝 観音堂乃あなう。漁之位頼政

自宮しこらや。うらむらげきるる
のしこく。芝のしこく。二之間四方をいん
の上に一が乃ねら

○釣殿

けまかたうらび巖子陵が釣甚なりしとひ出
たり。載復古の詩に。三公不換此江山。范希文の
祠堂記乃し。雲山。蒼君。江水。決先。生之
風山。高水。長王。秋江。詩。衣。争。似。一。絲。輕。成
齋堂。後漢。帝。乃。二。十。八。將。圖。乃。し。載
み。心。を。魚。に。い。ら。る。あ。と
又。本。人。乃。詩。に。渠。知。天。子。是。何。官。や。し。く。り
し。し。く。り

慧心院

○け院を興聖寺の川下也

源信姓ハ下部氏の何ゾ。和列葛木郡を
人父の名を正親母ハ清原氏也。や父母
少く郡乃高尾寺よいのりて。儲けりし
少かり信ハ少く。以本相の多よ
る尾寺を藏中。大小明暗乃境ありと
一人の沙門暗小る於境をわす人横川に
りて。みりたをせも。いふら。おら
起る。免ひる。く。はく。磨心乃慈慧法師
には。人。く。め。く。まの。く。や。わ。を。せ

いふく。信。く。一。顯密乃教。く。こ。も。め
一。乘要訣。往生要集。阿弥陀經疏。大乘對俱
舍抄。目明相違注。など著述。一。慧心院乃
僧都。や。る。し。大唐南潮知礼法師。同書。は
く。け。り。く。ま。て。遊。一。ま。ゆ。く。で。寛仁元年六月
十日。の。や。ま。と。集。多。ま。く。く。死。期。あり。た
多。義。の中。う。い。づ。り。こ。い。ん。だ。く。く。ま。か
こ。て。決定。し。ま。く。く。く。く。つ。人。を。さ。け。け。く
上。定。慶。祐。一人。を。い。て。二。重。子。乃。逆。接。し
ゆ。く。ま。く。く。け。を。その。の。の。た。り。り。か。く。ま。だ

壽七十六何々。夫がや。よ。ふが。記。の。新。よ。
に。女。い。心。中。も。も。ま。な。の。こ。く。を。西。
よ。の。を。こ。か。る。も。さ。り。頼。宗。皇。帝。倚。於。の。
道。言。を。こ。の。み。く。塔。唐。と。け。く。終。像。
言。お。う。め。の。の。ひ。を。な。り。ま。ら。る。な。

興聖寺

○け寺ハ慧心院乃川上也

越前の国永平經寺乃田山道延明基の地
なり。る。く。一。く。延。け。え。け。り。る。は。後。令。渡。城。守。
永井信列直房再興一志と清雕とととと
けり也

離宮八幡

○け宮之。宇治橋の門に。平等院乃川向るり
兼平と中々。や。平貞盛大將軍と新也。
忠文ハ征東將軍とがら。けり。平將門
賀代詩一強おいげり。賞褒や。そ。と。
一に。忠文之。藤實頼と乃評。か。ひ。か。
ふ。か。り。藤。藤。師。輔。と。い。ひ。や。
一。何。も。し。や。帝。ゆ。り。の。の。の。て。乃。ら。
忠文けけ。よ。憂。死。一。ま。ら。ゆ。て。是。か。ん。
離宮八幡なり

宇治山

○けふ。浄室戸山は事なるん

喜撰法師より我居の都のしつゝ志つを
ふれりらふと人さつとるも。しつゝ
法師のえをさりの入る。鴨長谷の
室のあく。又余町に。中よ入く。宇
治の乃。春接の。しつゝ。あつとる。しつゝ
しつゝ。堂の石。しつゝ。しつゝ。しつゝ。
しつゝ。しつゝ。しつゝ。しつゝ。しつゝ。
か。しつゝ。しつゝ。しつゝ。しつゝ。しつゝ。
しつゝ。しつゝ。しつゝ。しつゝ。しつゝ。

窺仙居宇治山持密兜兼求長生辟穀服餌一旦
乗雲而去

朝日山

○けふ。平等院じつひらひら

新古今に権大納言公實の。麓に。乃川。朝日山

槇嶋

○けふ。宇治れ西より

四十。己。あつとる。しつゝ。しつゝ。しつゝ。しつゝ。しつゝ。
が。今。堤。を。けふ。て。宇治。れ。里。は。しつゝ。しつゝ。

とくしつる。この後よ布衣はくしつぬ。
藤宴無うしに隈もぬふたつとら
のらくく布衣さくせはさくさく人
○釣月菴 月は清くくはくさく人
貞和集よ。解集釣月このまらり。
おろしつていひくぬ

巨椽

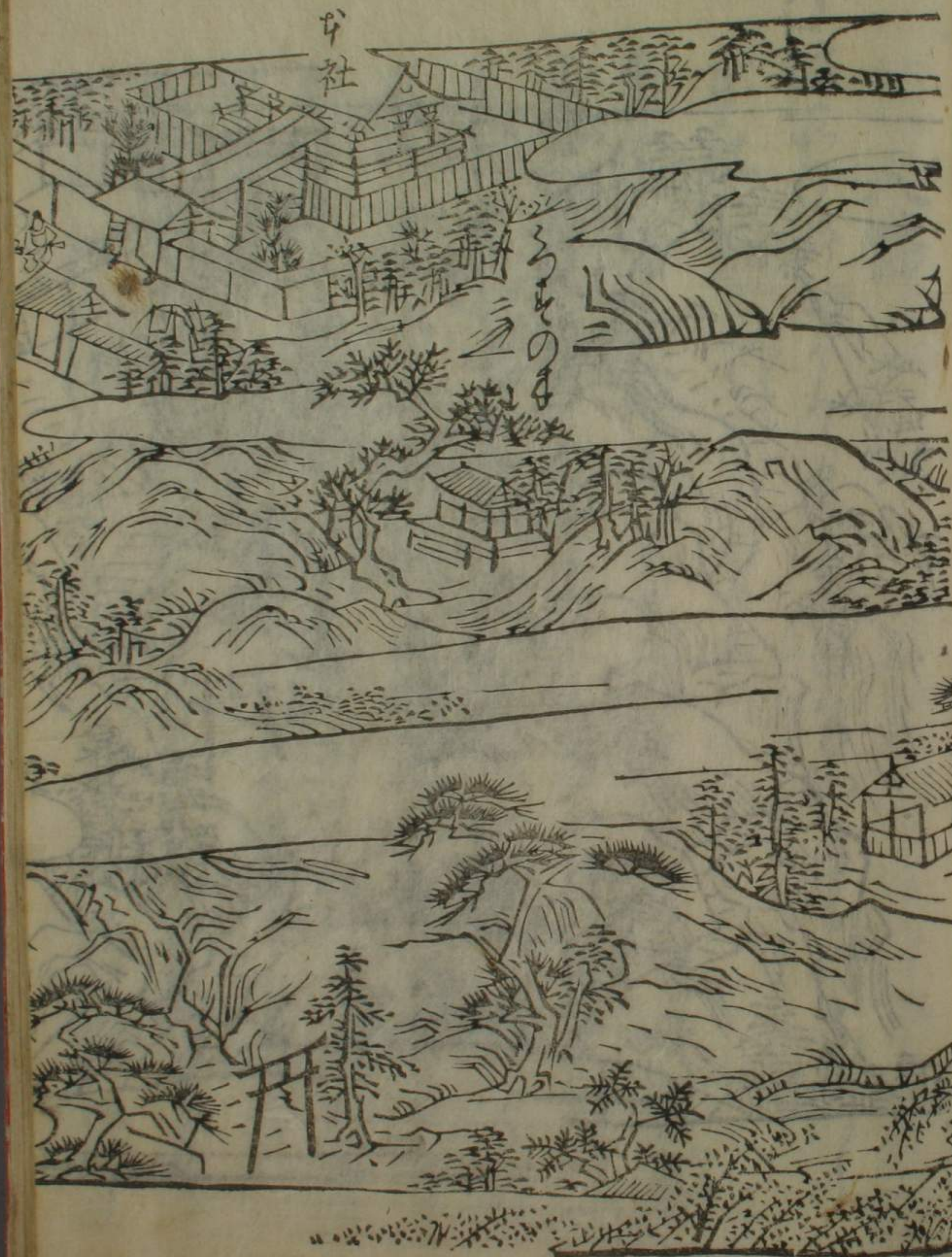
○は形は伏見より。二里南のうらなり
古云のに巨椽入江をぐくぬりけつと射野人の
伏見の回舟はなるわらん けさのれり

巨椽は流よちるさくさく人といふに
つらさくいぬ人のうらんとつげらりと秋きり
去るの秋九月余和加郡山へゆゆり時いぬ

巨椽堤上路程長 羈客志望雲水卿
菅秋葉枯波又冷 鷺鷥伴立捕魚郎

狭鑿河 決田りしつり

○は河は伏見とさくさく人といふ
神垣をいさくさく人といふ
つらさくいぬ人のうらんとつげらりと秋きり
去るの秋九月余和加郡山へゆゆり時いぬ





八幡

○げふら。海防より。カ。里。由。方。也。里。村。あり。

八幡天白皇足仲天白皇の第四の子也。母は氣
 長足姫少く云。天白皇八白皇后乃新羅と討たふ
 多かりあて二月筑紫の牧田に生へり。やうけ
 たり。て。さ。く。み。に。船。表。六。一。ま。り。を
 條。皇。太后。政。お。さ。め。し。あ。ふ。る。と。あ。り。て。ま。り。
 皇。太。子。と。せ。り。時。年。日本紀第十に云
 應神天皇御名。答言。天白皇。又胎中奉養と号
 大和の輕乃鳴。豐御宮に君臨す。い。れ。り。

平将門乱と東列よおしせし朝延は往よ
いのらと孫ひ大神まづし。将門の首は斬字
とてぞ。その報實よ。臨時の承ふ。執使よ。播磨
守光明朝臣や。兼俊あ千人はけし。いふよ
天禄二年うりうりうづし。おこるし。れり

伊豫守漁朝臣頼義八幡賀衣新羅のし中よ
のり。男あは。束めわ。て。て。て。其嫡男
義家。ひ。七。八幡太郎と号し。次男義国と号
長次郎と号し。と。男。義。と。新羅と号す。や
中し。ね

後鳥羽院清製よ。石渚水とて。を。う。月。の。光
よ。と。ひ。し。れ。神。は。刀。う。ら。ら。ら。ら
伏見院の製に。い。い。水。流。乃。す。之。は。う。を。は
ま。く。孫。と。し。て。す。ま。ん。と。あ。は。の。く。よ
臨時の承ふ。後醍醐院。九。の。孫。の。一。と。号す
は。又。う。し。し。け。う。あ。の。と。人
朱雀院の承ふ。清水の臨時の承ふ。は。と。て。あ。く
お。こ。り。せ。孫。と。て。あ。こ。し。ま。ら。し。と。う。し。記。世。之
松。を。お。ひ。又。を。斬。し。と。て。は。は。ぬ。り。ま。と。ゆ。く
け。う。人。ま。ら。し。ん。又。定。家。の。ま。ら。し。と。う。し。ち。つ。つ。し。と。て。う
長。よ。す。ま。ら。し。ら。け。竹。の。大。さ。あ。人。れ。と。す。と。う。し

いとも候所のまうりのめや

○疫神社 八幡の齋や人に疫のまやまうるや

放生録

○け川ハ八幡心のみととなり。そのまは揚のりなり
抑放生れ事ハ伝氏ありといひとめく。念
明經よ遊水長者涸魚体たしてけ。初
に生まき一因縁をばく。慈悲や終一功に
まき名にをけらとぬ。伝祖通載。唐の東に
放生池ありき。一やと伝載にり。其碑の
龍真卿が作たり。止白居りか。放生乃行は
も。人身をまきまうるにげさみありへりりめや。

放生小湖の放生をいひて。華大卿の
いし。こやとお海つたり。ごあやまきとめ
六乙居士が海をいひて。とんくたてく
か。まらるる。後。危儀式。あせれ。人よ
して。涸魚体たり。初。一。け。は。ま
が。小。大。信。一。け。は。ま
魚子。涸魚。を。あ。湖。つ。け。は。ま
つ。あ。や。廣。德。軍。放。生。池
此記ハ一事。うらま。け。は。ま。い。さ。め。は。ら。い
あ。さ。う。け。は。ま。世。の。ま。う。く。人。の
ん。乃。ま。み。く。た。ら。い。と。め。う。く。い。ん

もたおのしき事なめさ少用捨しよりとよ
乃三乳ぐわらんさいもや妖鷹いん鳥とあつたれ
おおくくハハ園えん曲きょくししててららのの形かたちををららり
孝かう恩いん死し物ぶつ教きょう救きう救きう神かみ神かみ
八幡心

後鳥羽院ハ熱あつ。八幡心はちまんとこころににははしし神かみのの内うち
よよ於おかかけけととねねををううめめくく後のち久く我われ前まへ太たい政せい太たい政せい
ままままののににははししててららのの形かたちををららり
そそののおおのの娘むすめににははししててららのの形かたちををららり
八幡心はちまんとこころややささららんんのの杖つゑををくくささららり
ののこころろににははししててららのの形かたちををららり

楠木 楠正成まこと祈いのち願ねがひああくく裁さだけけらられれや

社やしろハハ武ぶ田でん兵へい家けにに信しん仰やう。勢いき猛まう利り威いははり
ゆゆららみみととううももいいののこころろににははししててららのの形かたちををららり
謀まう密みつ運うん子こののこころろににははししててららのの形かたちををららり
五ご劫きやくははししててららのの形かたちををららり
於おこころろににははししててららのの形かたちををららり
ああくくそそゆゆららししめめ本ほん時とき正せい成せい戦せん勝しょう軍ぐん利りととり
子こはは楠なん木きののかかはは八はち幡はちまんとこころののこころろににははししててららのの形かたちををららり
折おししりりののこころろににははししててららのの形かたちををららり
内うちににははししててららのの形かたちををららり

ふねをわぶぶとておこさる。男くついで。女の
すつとらうしつとをひくど。寝てひに
ほひしに。門のさうか。り衣紙からけさ
いふとあやし。ちりふぐれ女死てきさる
くひくも。寝つもの。のさね紙さうりて。さ
まに。もと。さう。おと。宮。ぼく。ふ。より。り。衣
よ。く。く。め。ほ。く。さ。バ。バ。れ。衣。あ。く。く。て
ど。り。に。や。さ。ゆ。か。に。この。衣。む。よ。め。り。く。ち。く
女。即。死。と。う。き。終。火。つ。つ。さ。び。う。し。は。せ。ぬ。
○ 頼。風。の。て。み。く。ふ。お。さ。る。へ。し。候。さ。さ。さ。に。り。く。
頼。風。の。の。も。く。ん。う。ら。ん。と。い。れ。ば。け。れ。う。く。け

き。し。さ。う。く。さ。う。く。さ。う。く。さ。の。け。さ。さ
○ お。さ。ら。わ。ら。さ。ら。う。頼。風。に。は。え。く。く。て。女。の
死。し。ら。う。に。よ。か。と。な。げ。け。ら。ぬ。さ。う。し。を
夫婦。と。さ。ま。ら。し。男。優。女。優。と。さ。ま。ら。り。お。く。く
心。よ。め。り。も。この。候。さ。り

狗山 野渡

○はらふちまのうらげのし

狗心は^{たけ}野鳥東川^{くさ}わたるまをきくこゝに
けしやう^あきくこゝに^ま又^あきくこゝに^あ
しを^あ唐^あさ^あむ^あり^あげ^あぬ^あ乃^あ狗^あ野^あに^あは^ある^あ
けし^あく^あし^あの^あ死^あ大^あ納^あ之^あ朝^あ光^あま^あの^あ音^あに^あ
同^あ狗^あの^あ後^あま^あ瓜^あけ^あく^ある^あま^あら^あり^あ
る^あら^あり^あ

蟹満寺

○は寺の狗乃はけごふたなり

むし^あけ^あ水^あに^あ一^あ人^あ有^あ此^あの^あよ^あ仏^あ氏^あ信^あに^あたり

ね^あ女^あ子^あの^あ死^あり^あま^あ七^あ歳^あの^あ法^あ義^あ普^あ門^あに^あ

備^あし^あ全^あ部^あに^あけ^あり^あ。或^あ時^あ村^あ人^あ乃^あ蟹^あを^あそ^あく

け^あら^あび^あそ^あく^あひ^あ我^あ家^あの^あ乾^あ魚^あと^あや^あら^あ蟹^あ以^あ河

中^あに^あも^あれて^あつ^あ其^あ父^あ田^あ中^あに^あ耕^あ居^あら^あり^あふ^あ二^あ蛇^あ乃

蟹^あを^あそ^あく^あこ^あま^あを^あこ^あま^あ父^あ憐^あしく^あい^あつ^あら

も^あ一^あ蟹^あを^あそ^あく^あは^ある^あ者^あお^あと^あん^あ告^あむ^あは^あい

も^あを^あそ^あく^あ蟹^あを^あそ^あく^あ捨^あて^あら^あり^あ父^あ舎^あに^あ御

つ^あも^あお^あい^あお^あつ^ある^あま^あら^あび^あお^あと^あん^あ女

を^あい^あお^あく^あ父^あと^あも^あし^あら^あり^あ門^あを^あ叩^あか^あす^あこ^あも

お^あも^あ女^あと^あり^あら^あり^あと^あら^あと^あら^あと^あら^あと^あら

く^あ小^あ屋^あを^あ造^あら^あむ^あ女^あけ^あ肉^あよ^あり^あ御^あ若^あし^あら^あり^あお^あへ

さね乃ち衣冠しきり女乃ち殿堂に
かりとたり。数又の蛇やたり。室を
音して悲声又すえぬ。明日見けり。大蟬
来り。蛇をさし死せり。小蟹もさし事
かり。父母大に恨ひ使り。衆徒はうづめ
し。蟹澤寺あり。又依幡寺と云。如堂中
あり。女音に泣き痛し。一菩薩あり。擲
獲せん。のたまへり。げ

木津川

○け川に流るるのときなり

元後朝長を。桃の花咲やと月乃み。

のちこれの後もとらるる。又玄
に。君と誰の心を。木津川の
よ。う。う。う。う。の。白。糸

旅山

○け下いこころ

後拾遺に。場はたを。長
け。う。う。う。う。又後
ハ。松乃。あ。ら。し。や。時
わ。う。の。し。る。と。い

魁色

○けふくくくの森くつくくくく
中内言家持云のに月くひくくくく
いはいはいはよ宿をせ入くくくく
てくくくくくくくくくくくくく
すくくくくくくくくくくくく

衣手録

○羽輔云のよ秋くくくく誰くくく
くくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくく
の社くくくくくくくくくくく

井手

○けふくくくくくくくくく
魚順云のよ秋くくくくくく
みくくくくくくくくくくく
まのいぐめくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

玉井

○けふくくくくくくくくく
進財云のに秋くくくくくく
乃おまねの下の下又秋のよ玉の
や見くくくくくくくくくく

○け下玉川のてら

後鳥羽院清養4.玉川の名の心吹つけ
 みくくくくくくくくくくくくくくくくく
 後徳²とのに。然らるるもみでの玉川³に
 八つにやへるふひ子さこの花とくあなる
 くとて後⁴の。名母⁵一つか女はうく紫
 環⁶黃⁷瑛⁸少く刀⁹のあーさんや。きくくくく
 泉¹⁰下

○け下玉川のてら

はぬきもてあせふ。又後徳とあつこめ
 乃¹¹所¹²後¹³よ¹⁴いげ¹⁵川¹⁶に¹⁷石¹⁸も¹⁹あ²⁰り²¹は²²く
 くの。定²³家²⁴に²⁵あ²⁶は²⁷す²⁸こ²⁹の³⁰あ³¹ひ³²の³³あ³⁴ん
 を³⁵ら³⁶く³⁷く³⁸人³⁹乃⁴⁰若⁴¹く⁴²ゆ⁴³る⁴⁴也

總喜直

高

○け下玉川のてら

後古⁴⁵う⁴⁶よ⁴⁷の⁴⁸家⁴⁹親⁵⁰4⁵¹も⁵²は⁵³れ⁵⁴は⁵⁵ら⁵⁶の⁵⁷あ⁵⁸は
 鉄⁵⁹の⁶⁰い⁶¹ん⁶²の⁶³ら⁶⁴に⁶⁵あ⁶⁶ら⁶⁷は⁶⁸た⁶⁹か⁷⁰る⁷¹あ⁷²ら⁷³な
 誰⁷⁴中⁷⁵に⁷⁶い⁷⁷く⁷⁸こ⁷⁹乃⁸⁰奈⁸¹れ⁸²夕⁸³露⁸⁴も⁸⁵く⁸⁶い⁸⁷落
 ぱ⁸⁸く⁸⁹く⁹⁰く⁹¹く⁹²く⁹³く⁹⁴く⁹⁵く⁹⁶く⁹⁷く⁹⁸く⁹⁹く¹⁰⁰く¹⁰¹く¹⁰²く¹⁰³く¹⁰⁴く¹⁰⁵く¹⁰⁶く¹⁰⁷く¹⁰⁸く¹⁰⁹く¹¹⁰く¹¹¹く¹¹²く¹¹³く¹¹⁴く¹¹⁵く¹¹⁶く¹¹⁷く¹¹⁸く¹¹⁹く¹²⁰く¹²¹く¹²²く¹²³く¹²⁴く¹²⁵く¹²⁶く¹²⁷く¹²⁸く¹²⁹く¹³⁰く¹³¹く¹³²く¹³³く¹³⁴く¹³⁵く¹³⁶く¹³⁷く¹³⁸く¹³⁹く¹⁴⁰く¹⁴¹く¹⁴²く¹⁴³く¹⁴⁴く¹⁴⁵く¹⁴⁶く¹⁴⁷く¹⁴⁸く¹⁴⁹く¹⁵⁰く¹⁵¹く¹⁵²く¹⁵³く¹⁵⁴く¹⁵⁵く¹⁵⁶く¹⁵⁷く¹⁵⁸く¹⁵⁹く¹⁶⁰く¹⁶¹く¹⁶²く¹⁶³く¹⁶⁴く¹⁶⁵く¹⁶⁶く¹⁶⁷く¹⁶⁸く¹⁶⁹く¹⁷⁰く¹⁷¹く¹⁷²く¹⁷³く¹⁷⁴く¹⁷⁵く¹⁷⁶く¹⁷⁷く¹⁷⁸く¹⁷⁹く¹⁸⁰く¹⁸¹く¹⁸²く¹⁸³く¹⁸⁴く¹⁸⁵く¹⁸⁶く¹⁸⁷く¹⁸⁸く¹⁸⁹く¹⁹⁰く¹⁹¹く¹⁹²く¹⁹³く¹⁹⁴く¹⁹⁵く¹⁹⁶く¹⁹⁷く¹⁹⁸く¹⁹⁹く²⁰⁰く²⁰¹く²⁰²く²⁰³く²⁰⁴く²⁰⁵く²⁰⁶く²⁰⁷く²⁰⁸く²⁰⁹く²¹⁰く²¹¹く²¹²く²¹³く²¹⁴く²¹⁵く²¹⁶く²¹⁷く²¹⁸く²¹⁹く²²⁰く²²¹く²²²く²²³く²²⁴く²²⁵く²²⁶く²²⁷く²²⁸く²²⁹く²³⁰く²³¹く²³²く²³³く²³⁴く²³⁵く²³⁶く²³⁷く²³⁸く²³⁹く²⁴⁰く²⁴¹く²⁴²く²⁴³く²⁴⁴く²⁴⁵く²⁴⁶く²⁴⁷く²⁴⁸く²⁴⁹く²⁵⁰く²⁵¹く²⁵²く²⁵³く²⁵⁴く²⁵⁵く²⁵⁶く²⁵⁷く²⁵⁸く²⁵⁹く²⁶⁰く²⁶¹く²⁶²く²⁶³く²⁶⁴く²⁶⁵く²⁶⁶く²⁶⁷く²⁶⁸く²⁶⁹く²⁷⁰く²⁷¹く²⁷²く²⁷³く²⁷⁴く²⁷⁵く²⁷⁶く²⁷⁷く²⁷⁸く²⁷⁹く²⁸⁰く²⁸¹く²⁸²く²⁸³く²⁸⁴く²⁸⁵く²⁸⁶く²⁸⁷く²⁸⁸く²⁸⁹く²⁹⁰く²⁹¹く²⁹²く²⁹³く²⁹⁴く²⁹⁵く²⁹⁶く²⁹⁷く²⁹⁸く²⁹⁹く³⁰⁰く³⁰¹く³⁰²く³⁰³く³⁰⁴く³⁰⁵く³⁰⁶く³⁰⁷く³⁰⁸く³⁰⁹く³¹⁰く³¹¹く³¹²く³¹³く³¹⁴く³¹⁵く³¹⁶く³¹⁷く³¹⁸く³¹⁹く³²⁰く³²¹く³²²く³²³く³²⁴く³²⁵く³²⁶く³²⁷く³²⁸く³²⁹く³³⁰く³³¹く³³²く³³³く³³⁴く³³⁵く³³⁶く³³⁷く³³⁸く³³⁹く³⁴⁰く³⁴¹く³⁴²く³⁴³く³⁴⁴く³⁴⁵く³⁴⁶く³⁴⁷く³⁴⁸く³⁴⁹く³⁵⁰く³⁵¹く³⁵²く³⁵³く³⁵⁴く³⁵⁵く³⁵⁶く³⁵⁷く³⁵⁸く³⁵⁹く³⁶⁰く³⁶¹く³⁶²く³⁶³く³⁶⁴く³⁶⁵く³⁶⁶く³⁶⁷く³⁶⁸く³⁶⁹く³⁷⁰く³⁷¹く³⁷²く³⁷³く³⁷⁴く³⁷⁵く³⁷⁶く³⁷⁷く³⁷⁸く³⁷⁹く³⁸⁰く³⁸¹く³⁸²く³⁸³く³⁸⁴く³⁸⁵く³⁸⁶く³⁸⁷く³⁸⁸く³⁸⁹く³⁹⁰く³⁹¹く³⁹²く³⁹³く³⁹⁴く³⁹⁵く³⁹⁶く³⁹⁷く³⁹⁸く³⁹⁹く⁴⁰⁰く⁴⁰¹く⁴⁰²く⁴⁰³く⁴⁰⁴く⁴⁰⁵く⁴⁰⁶く⁴⁰⁷く⁴⁰⁸く⁴⁰⁹く⁴¹⁰く⁴¹¹く⁴¹²く⁴¹³く⁴¹⁴く⁴¹⁵く⁴¹⁶く⁴¹⁷く⁴¹⁸く⁴¹⁹く⁴²⁰く⁴²¹く⁴²²く⁴²³く⁴²⁴く⁴²⁵く⁴²⁶く⁴²⁷く⁴²⁸く⁴²⁹く⁴³⁰く⁴³¹く⁴³²く⁴³³く⁴³⁴く⁴³⁵く⁴³⁶く⁴³⁷く⁴³⁸く⁴³⁹く⁴⁴⁰く⁴⁴¹く⁴⁴²く⁴⁴³く⁴⁴⁴く⁴⁴⁵く⁴⁴⁶く⁴⁴⁷く⁴⁴⁸く⁴⁴⁹く⁴⁵⁰く⁴⁵¹く⁴⁵²く⁴⁵³く⁴⁵⁴く⁴⁵⁵く⁴⁵⁶く⁴⁵⁷く⁴⁵⁸く⁴⁵⁹く⁴⁶⁰く⁴⁶¹く⁴⁶²く⁴⁶³く⁴⁶⁴く⁴⁶⁵く⁴⁶⁶く⁴⁶⁷く⁴⁶⁸く⁴⁶⁹く⁴⁷⁰く⁴⁷¹く⁴⁷²く⁴⁷³く⁴⁷⁴く⁴⁷⁵く⁴⁷⁶く⁴⁷⁷く⁴⁷⁸く⁴⁷⁹く⁴⁸⁰く⁴⁸¹く⁴⁸²く⁴⁸³く⁴⁸⁴く⁴⁸⁵く⁴⁸⁶く⁴⁸⁷く⁴⁸⁸く⁴⁸⁹く⁴⁹⁰く⁴⁹¹く⁴⁹²く⁴⁹³く⁴⁹⁴く⁴⁹⁵く⁴⁹⁶く⁴⁹⁷く⁴⁹⁸く⁴⁹⁹く⁵⁰⁰く⁵⁰¹く⁵⁰²く⁵⁰³く⁵⁰⁴く⁵⁰⁵く⁵⁰⁶く⁵⁰⁷く⁵⁰⁸く⁵⁰⁹く⁵¹⁰く⁵¹¹く⁵¹²く⁵¹³く⁵¹⁴く⁵¹⁵く⁵¹⁶く⁵¹⁷く⁵¹⁸く⁵¹⁹く⁵²⁰く⁵²¹く⁵²²く⁵²³く⁵²⁴く⁵²⁵く⁵²⁶く⁵²⁷く⁵²⁸く⁵²⁹く⁵³⁰く⁵³¹く⁵³²く⁵³³く⁵³⁴く⁵³⁵く⁵³⁶く⁵³⁷く⁵³⁸く⁵³⁹く⁵⁴⁰く⁵⁴¹く⁵⁴²く⁵⁴³く⁵⁴⁴く⁵⁴⁵く⁵⁴⁶く⁵⁴⁷く⁵⁴⁸く⁵⁴⁹く⁵⁵⁰く⁵⁵¹く⁵⁵²く⁵⁵³く⁵⁵⁴く⁵⁵⁵く⁵⁵⁶く⁵⁵⁷く⁵⁵⁸く⁵⁵⁹く⁵⁶⁰く⁵⁶¹く⁵⁶²く⁵⁶³く⁵⁶⁴く⁵⁶⁵く⁵⁶⁶く⁵⁶⁷く⁵⁶⁸く⁵⁶⁹く⁵⁷⁰く⁵⁷¹く⁵⁷²く⁵⁷³く⁵⁷⁴く⁵⁷⁵く⁵⁷⁶く⁵⁷⁷く⁵⁷⁸く⁵⁷⁹く⁵⁸⁰く⁵⁸¹く⁵⁸²く⁵⁸³く⁵⁸⁴く⁵⁸⁵く⁵⁸⁶く⁵⁸⁷く⁵⁸⁸く⁵⁸⁹く⁵⁹⁰く⁵⁹¹く⁵⁹²く⁵⁹³く⁵⁹⁴く⁵⁹⁵く⁵⁹⁶く⁵⁹⁷く⁵⁹⁸く⁵⁹⁹く⁶⁰⁰く⁶⁰¹く⁶⁰²く⁶⁰³く⁶⁰⁴く⁶⁰⁵く⁶⁰⁶く⁶⁰⁷く⁶⁰⁸く⁶⁰⁹く⁶¹⁰く⁶¹¹く⁶¹²く⁶¹³く⁶¹⁴く⁶¹⁵く⁶¹⁶く⁶¹⁷く⁶¹⁸く⁶¹⁹く⁶²⁰く⁶²¹く⁶²²く⁶²³く⁶²⁴く⁶²⁵く⁶²⁶く⁶²⁷く⁶²⁸く⁶²⁹く⁶³⁰く⁶³¹く⁶³²く⁶³³く⁶³⁴く⁶³⁵く⁶³⁶く⁶³⁷く⁶³⁸く⁶³⁹く⁶⁴⁰く⁶⁴¹く⁶⁴²く⁶⁴³く⁶⁴⁴く⁶⁴⁵く⁶⁴⁶く⁶⁴⁷く⁶⁴⁸く⁶⁴⁹く⁶⁵⁰く⁶⁵¹く⁶⁵²く⁶⁵³く⁶⁵⁴く⁶⁵⁵く⁶⁵⁶く⁶⁵⁷く⁶⁵⁸く⁶⁵⁹く⁶⁶⁰く⁶⁶¹く⁶⁶²く⁶⁶³く⁶⁶⁴く⁶⁶⁵く⁶⁶⁶く⁶⁶⁷く⁶⁶⁸く⁶⁶⁹く⁶⁷⁰く⁶⁷¹く⁶⁷²く⁶⁷³く⁶⁷⁴く⁶⁷⁵く⁶⁷⁶く⁶⁷⁷く⁶⁷⁸く⁶⁷⁹く⁶⁸⁰く⁶⁸¹く⁶⁸²く⁶⁸³く⁶⁸⁴く⁶⁸⁵く⁶⁸⁶く⁶⁸⁷く⁶⁸⁸く⁶⁸⁹く⁶⁹⁰く⁶⁹¹く⁶⁹²く⁶⁹³く⁶⁹⁴く⁶⁹⁵く⁶⁹⁶く⁶⁹⁷く⁶⁹⁸く⁶⁹⁹く⁷⁰⁰く⁷⁰¹く⁷⁰²く⁷⁰³く⁷⁰⁴く⁷⁰⁵く⁷⁰⁶く⁷⁰⁷く⁷⁰⁸く⁷⁰⁹く⁷¹⁰く⁷¹¹く⁷¹²く⁷¹³く⁷¹⁴く⁷¹⁵く⁷¹⁶く⁷¹⁷く⁷¹⁸く⁷¹⁹く⁷²⁰く⁷²¹く⁷²²く⁷²³く⁷²⁴く⁷²⁵く⁷²⁶く⁷²⁷く⁷²⁸く⁷²⁹く⁷³⁰く⁷³¹く⁷³²く⁷³³く⁷³⁴く⁷³⁵く⁷³⁶く⁷³⁷く⁷³⁸く⁷³⁹く⁷⁴⁰く⁷⁴¹く⁷⁴²く⁷⁴³く⁷⁴⁴く⁷⁴⁵く⁷⁴⁶く⁷⁴⁷く⁷⁴⁸く⁷⁴⁹く⁷⁵⁰く⁷⁵¹く⁷⁵²く⁷⁵³く⁷⁵⁴く⁷⁵⁵く⁷⁵⁶く⁷⁵⁷く⁷⁵⁸く⁷⁵⁹く⁷⁶⁰く⁷⁶¹く⁷⁶²く⁷⁶³く⁷⁶⁴く⁷⁶⁵く⁷⁶⁶く⁷⁶⁷く⁷⁶⁸く⁷⁶⁹く⁷⁷⁰く⁷⁷¹く⁷⁷²く⁷⁷³く⁷⁷⁴く⁷⁷⁵く⁷⁷⁶く⁷⁷⁷く⁷⁷⁸く⁷⁷⁹く⁷⁸⁰く⁷⁸¹く⁷⁸²く⁷⁸³く⁷⁸⁴く⁷⁸⁵く⁷⁸⁶く⁷⁸⁷く⁷⁸⁸く⁷⁸⁹く⁷⁹⁰く⁷⁹¹く⁷⁹²く⁷⁹³く⁷⁹⁴く⁷⁹⁵く⁷⁹⁶く⁷⁹⁷く⁷⁹⁸く⁷⁹⁹く⁸⁰⁰く⁸⁰¹く⁸⁰²く⁸⁰³く⁸⁰⁴く⁸⁰⁵く⁸⁰⁶く⁸⁰⁷く⁸⁰⁸く⁸⁰⁹く⁸¹⁰く⁸¹¹く⁸¹²く⁸¹³く⁸¹⁴く⁸¹⁵く⁸¹⁶く⁸¹⁷く⁸¹⁸く⁸¹⁹く⁸²⁰く⁸²¹く⁸²²く⁸²³く⁸²⁴く⁸²⁵く⁸²⁶く⁸²⁷く⁸²⁸く⁸²⁹く⁸³⁰く⁸³¹く⁸³²く⁸³³く⁸³⁴く⁸³⁵く⁸³⁶く⁸³⁷く⁸³⁸く⁸³⁹く⁸⁴⁰く⁸⁴¹く⁸⁴²く⁸⁴³く⁸⁴⁴く⁸⁴⁵く⁸⁴⁶く⁸⁴⁷く⁸⁴⁸く⁸⁴⁹く⁸⁵⁰く⁸⁵¹く⁸⁵²く⁸⁵³く⁸⁵⁴く⁸⁵⁵く⁸⁵⁶く⁸⁵⁷く⁸⁵⁸く⁸⁵⁹く⁸⁶⁰く⁸⁶¹く⁸⁶²く⁸⁶³く⁸⁶⁴く⁸⁶⁵く⁸⁶⁶く⁸⁶⁷く⁸⁶⁸く⁸⁶⁹く⁸⁷⁰く⁸⁷¹く⁸⁷²く⁸⁷³く⁸⁷⁴く⁸⁷⁵く⁸⁷⁶く⁸⁷⁷く⁸⁷⁸く⁸⁷⁹く⁸⁸⁰く⁸⁸¹く⁸⁸²く⁸⁸³く⁸⁸⁴く⁸⁸⁵く⁸⁸⁶く⁸⁸⁷く⁸⁸⁸く⁸⁸⁹く⁸⁹⁰く⁸⁹¹く⁸⁹²く⁸⁹³く⁸⁹⁴く⁸⁹⁵く⁸⁹⁶く⁸⁹⁷く⁸⁹⁸く⁸⁹⁹く⁹⁰⁰く⁹⁰¹く⁹⁰²く⁹⁰³く⁹⁰⁴く⁹⁰⁵く⁹⁰⁶く⁹⁰⁷く⁹⁰⁸く⁹⁰⁹く⁹¹⁰く⁹¹¹く⁹¹²く⁹¹³く⁹¹⁴く⁹¹⁵く⁹¹⁶く⁹¹⁷く⁹¹⁸く⁹¹⁹く⁹²⁰く⁹²¹く⁹²²く⁹²³く⁹²⁴く⁹²⁵く⁹²⁶く⁹²⁷く⁹²⁸く⁹²⁹く⁹³⁰く⁹³¹く⁹³²く⁹³³く⁹³⁴く⁹³⁵く⁹³⁶く⁹³⁷く⁹³⁸く⁹³⁹く⁹⁴⁰く⁹⁴¹く⁹⁴²く⁹⁴³く⁹⁴⁴く⁹⁴⁵く⁹⁴⁶く⁹⁴⁷く⁹⁴⁸く⁹⁴⁹く⁹⁵⁰く⁹⁵¹く⁹⁵²く⁹⁵³く⁹⁵⁴く⁹⁵⁵く⁹⁵⁶く⁹⁵⁷く⁹⁵⁸く⁹⁵⁹く⁹⁶⁰く⁹⁶¹く⁹⁶²く⁹⁶³く⁹⁶⁴く⁹⁶⁵く⁹⁶⁶く⁹⁶⁷く⁹⁶⁸く⁹⁶⁹く⁹⁷⁰く⁹⁷¹く⁹⁷²く⁹⁷³く⁹⁷⁴く⁹⁷⁵く⁹⁷⁶く⁹⁷⁷く⁹⁷⁸く⁹⁷⁹く⁹⁸⁰く⁹⁸¹く⁹⁸²く⁹⁸³く⁹⁸⁴く⁹⁸⁵く⁹⁸⁶く⁹⁸⁷く⁹⁸⁸く⁹⁸⁹く⁹⁹⁰く⁹⁹¹く⁹⁹²く⁹⁹³く⁹⁹⁴く⁹⁹⁵く⁹⁹⁶く⁹⁹⁷く⁹⁹⁸く⁹⁹⁹く¹⁰⁰⁰く

みよきけりしつゝいふまじしそとていふる

日記よりつゞき

文述都

けしつら川のりり

土御門院の製に吹んを新とのやあふ
らん久遠のあふあふはらた又切能
秋よ採のさしあふ山牛の部とくはの
初ふえおほくはり

笠置窟

いふまじし川のりり

秋貞塔の厨基

秋貞塔のた大弁貞憲子たるは、藤原の藤原の
つらつらと貞塔のつらつらと興福に
言はれりして寂勝得乃招は、毎毎をりつらつと
と。ゆづりつらつと。兼僕は人よつらつと
宮に入りつらつと。おれつらつと。みやじやつらつと
あふ。おれつらつと。ゆん。おれつらつと。わし。あつと
御おつらつと。後南。あつと。あつと。笠置窟
にあり。高名。おれつらつと。後鳥羽。あつと。あつと
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと
て。佛宇。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと
し。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと

ろくく宮よりつらり杖笠試階のつらつたにお
まを敬遊よのがり。洞変にのろつらつらい。あ。
麻呂北乃ららばはさるきりぞろきよりりあち。
まふ。まの目の何よまのうで。まのふは群集ふの
り人の足おつらと解体とさるらーとや
然と遊法師云のにまああ。まのうとまのういりまよ
杉山くまらくつらつらまのうとまのういりまよ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

